

# 野外での採集と観察法 ■ 環境に応じた最適の採集法を選ぼう

カメムシ博士をめざして

## その① まずは見つけ採りから

下にあげた写真は熱帯や亜熱帯では、ごくありふれた郊外の風景にすぎないが、カメムシ愛好家の眼には宝箱のような好採集地に映る。バナナの枯葉、立ち枯れた樹、積まれた草…探ってみたいポイントが集中している。さて、どこからどうやって攻めようか？



一見ありふれた風景、実はカメムシの宝庫



見つけ採り2景。見つけ採り以外では採れないカメムシもあるので、眼力を磨こう

## その② ガサガサ採集

草本類の根元はカメムシ類の格好のすみかである。密に茂ったチガヤやススキ、メヒシバ、もしくは湿地の草本類などを、しゃがみ込んで根元までかき分けると、たくさんの昆虫が這い回る光景をしばしば見ることができる。通常の採集ではなかなかお目にかかれないアシナガサシガメやトビイロサシガメといったサシガメ類をはじめ、マキバサシガメ類、ハシリカスミカメ類、ヒョウタンナガカメムシ類、トビイロカメムシ類などを効率よく採集することができる。



本採集法の元祖(『日本原色カメムシ図鑑第3巻』の編・著者)によるガサガサ採集

## その③ ゴソゴソ採集

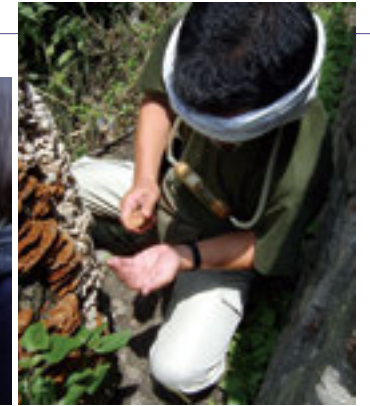
林床で捕虫網や叩き網を地面に拡げ、その上に落ち葉を置いてゴソゴソかき分けるとおもに小型のカメムシが得られる。ザルを使ってさらなる微小種をふるい出すのもよく、これはザラザラ採集もしくは小豆洗いばりのショキシヨキ採集と呼ぶ？



林床でゴソゴソ採集し、吸虫管でゲット

## その④ サワサワ採集

コケやカワラタケ類をさわさわとすることで探り、小型のカメムシを採集する。アクリル板や厚紙を添えて行うと効率的。当たればたいがい珍品？

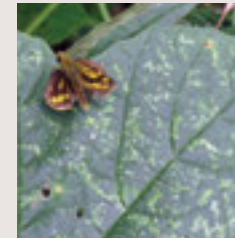


左:コケでサワサワ採集、右:カワラタケでサワサワ採集

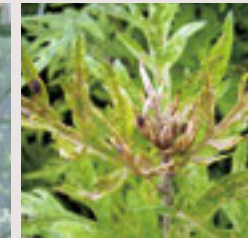


## カメムシの痕跡を見つける

植物を注意深く見て歩くと、痕跡からカメムシの存在に気づくことも多い。葉や茎に無数の斑点が付いて白っぽくなった、あるいは褐変している、新芽が縮れているなどの現象は、カメムシに由来する 경우가少なくない(同様の表徴は同翅類やアザミウマでも引き起こされるが、その場合も捕食性のカメムシがよく見つかる)。



セセリチョウのとまっている葉にカメムシ類の吸収痕が...



ヨモギカスミカメ類の発生により縮れあがったヨモギ

## その⑤ 薪割り採集

硬い倒木や朽ち木を鉋(ひた)やナイフを使って割る、掘削するといった、どちらかという力業の採集法。ただ、あまり乱暴にやると肝腎のカメムシを叩きつぶしてしまうので力加減に注意。ある程度割ったら、サワサワ採集に切り替えるとよいだろう。



倒木で薪割り採集

## その⑥ 皮はぎ採集

立木や朽ち木の樹皮の下には、けっこうカメムシがひそんでいる。ときに大珍品をめくり当てる期待に満ちている。



↑立木



朽ち木→

## その⑦ 草刈り採集など

草を根際から刈り、地表性のカメムシを狙う。その他、河原や海岸の石を起こす、流れついたゴミや海藻をひっくり返すなど、種類によっては変わった採集法で探索しなければならない。なお、洞窟や海蝕洞、蜂の巣といった特殊環境もカメムシの生息するポイントだが、探索に危険を伴うので割愛する。

カメムシ博士をめざして